

Trimble S7 VISION Robotic

広島市の株式会社第一総合エンジニア様は1966年に有限会社第一測量として創業された老舗で、多様な業務を通じて地域の社会資本を支えてこられました。

現在、ビデオ搭載サーボトータルステーションTrimble S6 VISION ×3台をフル稼働でご使用いただいております。さらに近々後継モデルのTrimble S7 VISION×2台をご導入いただくと情報を得た取材班が、年末でお忙しい社員の皆様のご都合も顧みず、広島でお話を伺って参りました。



技術部測量調査課 課長 橋本様



オートロック機能が可能にした「マラソン観測」

変わった現場のエピソードをお聞きますと、「夕方6時から朝6時まで12時間、延々観測を繰り返したマラソンのような現場がありました。飛行場の護岸の潮汐の影響による変位を調べるため、2万平方メートルの測地を何千点も測って、等高線を作成する業務でした。キツかったけれども、Trimble S6 VISIONのオートロック機能が可能にした観測方法でした。」



測量部測量課 係長 林様

Trimble S6 VISIONを導入

「何よりオートロックが便利です。特に測設は断然早いです。ロックする時『ブシューーン』と音がするのも分かりやすくてよいですね。また、ビデオ搭載のため、映像を見ながら観測できるのも便利です。」
「暗い中でもプリズムをロックするので、夜間の観測には助かります。LEDターゲットは追尾が粘り強くて良いですね。」

むしろ逆

Trimble S6の機能をご利用いただいた結果、時間的あるいは精神的にゆとりができたとおっしゃるユーザー様も多いのですが……、
「むしろ逆ですね。ロックが早い分ミラー側の人はたくさん走るし、仕事自体が増えましたし。やることはいくらでもあるので『ゆとりが生まれた』とは言いがたいですね。」
「効率アップは確かですが、1人分とまではいかないかな。」
「現場は2人が基本です。交通量が多い現場以外は、器械側は無人で、1人はミラー、もう1人は傍らで電子平板GUIDERを操作する形が多いです。」
現場では点を取れるだけ取ってGUIDERの仕上げは事務所で行う場合が多いとおっしゃるユーザー様が多いのですが、
「逆ですね。現場での仕上げが増えました。6割くらいは現場で仕上げるかな。」

「測距」が高評価

「傾斜がきついつき、望遠鏡を覗くところに顔が入らないところが不満ですね。」
それはどのような状況下で？
「山での横断観測作業です。反射スタッフを用いてミラー高を読みながら観測しますので、オートロック機能での捕捉もできませんし、どうしても望遠鏡を覗かなければなりません。」
オートロック機能が生かせないのに、何故山に持っていかれるのでしょうか？
「飛びが良いからです。木が茂っていても距離が返ってくるのです。なので、這ってでも持っていきます。そういえば、傾斜のきつい山で全自動の対回観測をしたことがあります。葉っぱなどの障害物があってもプリズムをロックしてくれるので伐採が最小限で済みますし、急傾斜の仰角を覗く必要もなく、その現場に最適でした。」

Trimble Sシリーズ フル稼働中

「現在、Trimble S6 VISION3台がフル稼働です。」
近々、後継モデルのTrimble S7 VISIONを2台追加導入される予定だそうです。
「その2台もフル稼働すると思います。」

取材させていただいた翌週、Trimble S7 VISIONを納品いたしました。Trimble S7 VISIONには近々「Trimble SureScan」機能を活用したプログラムが搭載されますので、ご利用いただければ幸いです。

